

第5回富良野市文化芸術振興条例検討委員会 議事録

と き 令和4年2月22日（火）

ところ ZOOM 開催

参加者 関委員長、篠田副委員長、藤田委員、中村委員、石平委員、桑原委員、原田委員、吉田委員
岡本委員

欠 席 太田委員

事務局 安西、墓田

1. たたき台作成ワーキンググループの進捗状況について

- 別紙の（案）について岡本委員より説明
- 事務局で追加した条文について説明
- アンケート作成ワーキンググループからの質疑

中村 基本理念の中の表現で「性別」とあるが、ジェンダーの表現は必要ないか。文化芸術だからこそ幅広く、色々な視点が必要ではないだろうか

石平 当初から議論され、その視点を入れるべきという判断になった。ただし、表現の方法として「ジェンダー」という言葉をダイレクトに入れるのは難しく、他市の条例を参考にしたところ性別という言葉を使っている市が多かった。ということは、この言葉を使うことでジェンダーや男女についての色々な考え方を受け入れているのだと解釈し「性別」という言葉を選んだ。

中村 条例の中で使ってもらいたい言葉がある。

「支援する」「応援し合う」

何かやりたいを応援できるまちであって欲しい。

「ボーダレス」「枠を超えて」

富良野の特性で外国人観光客も多いことから、文化的・距離的ボーダレスも含めて広い視点が必要。

「俯瞰する」

IT の力で距離の壁が無くなってきて、富良野の中だけで考えるのではなく、住んでいる人が今富良野はどうなっているのか、どうしたら素敵な街になるか考えることが出来る視点が必要と感じた。

「まち磨き」「まち育て」

まちづくりという言葉が一般的に使われているが、まちは既にできている。文化芸術振興条例だからこそ表現をみがいていければと思う。

篠田 俯瞰するという言葉は良い。大きなところから物を見るというのが素敵だと思う。応援し合うという言葉も良い。

中村 もう一点。NFT という言葉がある。ブロックチェーンという IT の技術が広がり、芸術の分野にもかかわってくる。芸術と経済の両面があって、例えば絵画だと原作に価値があり贋作には価値が無いと言われている。これをデジタルで表現できるテクノロジーが発展している。このような視点が入っていても良いと思う。

関 富良野に IT 企業やデジタル企業はあるか？あるいは、この表現を条例に盛り込むことで企業を誘致するということもありだと思ふ。芸術とテクノロジーがコラボするにあたり、市の IT・デジタル産業の状況を教えてもらいたい。

中村 自分の会社はデジタル系だと認識している

関 「応援し合う」は条文の中の市民の役割になる。案の中には市民誰もが文化芸術の担い手になるという意識で、相互に理解し尊重するとしたが、ここに「活動を支援し合う」という言葉が加わると市民の役割がさらに具体的に見てくるのではないかと。あと、今は境界が無くな

ってきているので「ボーダレス」という意味の言葉が入ると富良野がオープンなまちという特色がでてくると思う。

吉田 アイヌの人もいるということで、基本理念に民族という言葉も必要ではないか

藤田 賛成

吉田 人材育成の中で文化コーディネーターや中間支援組織に触れているが市民にとってなじみのない言葉で、分かりにくいのではないか。

篠田 市の職員がこの役を担うのが良いのかもしれないが、人事異動で数年単位で担当が変わる。コーディネーターは繋ぐ役目で、受ける側・届ける側の思いをしっかりと理解しなければならない。図書館には司書、美術館には学芸員がいる。海外では劇場に専門家がいるが、日本では文化の分野に専門家がいらない。市の中に配置するのが難しければ、第三者機関等をつくり育てることが必要と感じている。このことが文化的なまちにつながると思う。

吉田 思いは理解できる。ただ、今この役目の人がいないので市民にとって説明が必要な部分かなと思う。この文言が入っているのは先駆的なのか

関 アートマネジメントは30年前から言われており、文化コーディネーターも配置している自治体が増えている。コーディネーターは市民と行政のパイプ役。行政が市民の声を全て拾えれば良いが、なかなか難しいので、行政の考えを翻訳して市民に伝える人、市民の声を行政に伝える人が真ん中に絶対必要。富良野ではこの役割を担っている人が少ないように思う。今は、行政に直接伝えれば何とかなるだろうと思われるので、この仕組みは理解しづらいかも。富良野にとっては新しい言葉なので丁寧な説明が必要。

原田 市役所庁舎に文化会館が入ることになるが、今後の文化活動等について市民の中で心配の声はないのだろうか。

関 新しい文化会館の運営、計画については少し調べたい。

桑原 文化コーディネーターは民間で行うイメージをしているか。行政の中に社会教育主事という専門職がいる。富良野市にも数名いる。社会教育主事が当てはまるかわからないが、行政の中にもその立場で動ける人がいるのではないだろうか。それとも、やはり民間活力を活用するのがいいのか。

篠田 行政の中でもできる人はいると思う。ただ、コーディネートには幅広い知識が必要。数年で異動するのではなく、専門職として配置するのであれば市の職員が役目を担うのが良いと思うが、今は民間が良いのではないだろうか。

関 自治体の中で文化施策のコーディネーターを配置しているところもある。新しい文化会館にコーディネーターの拠点をつくるということは考えられないか

篠田 常勤で富良野市にすることが出来たら素晴らしい。

中村 文化コーディネーターという言葉を見てワクワクした。賛成。自分はITコーディネーターだと思っている。技術やテクノロジーを富良野にいかん落とし込むかについて、かみ砕いて説明できる人が必要。文化コーディネーターは、あそこをつなげたら良いとか、文化に関してのそのよう役割だと思う。いたほうが良いし民間でやったほうが良い。行政には人事があるし、民間の方が外とのつながりが広い場合が多く柔軟性があると思う。

また、吉田さんが言っていた文化コーディネーターをイメージできないという意見は大事にしなくてはならない。市民は条例を文書でしか見ないと思うが、条例を芸術で表現してはどうか。例えば、条例の内容を一枚の絵で表現し、ポスターのように様々な施設に掲示してもらおうとか。それを見ると富良野の目指している方向が分かるよう、視覚的に見える化して

はどうか。富良野にクリエイターがいればその人に作って貰えば面白い。

篠田 10年ほど前から文化コーディネーターという名刺を配っている。それを見た人は必ずどんなことをしていますかと聞いてくる。この言葉が一般に認知されるようになれば良いと思っている。

中村 行政の中に民間の人が入れる仕組みづくりをすると面白い。

関 様々なご意見ありがとうございます。条例ができることでワクワクが出てきたように思う。

藤田 条例の中で文化コーディネーターの配置についてしっかり明記してはどうか。定義づけは必要だと思うが。

関 文化コーディネーターだけでは活動しづらい。その人が活動できる場を作る意味でも、中間支援組織への支援が伴っていくことが必要。それによって活動が広がり、その組織に対し富良野市が支援するという仕組みにつながっていくと思う。

吉田 文化コーディネーターの配置を条文に入れることに賛成。ただ、ここは人材育成の条文であり、創造する人の育成と市民と行政をつなぐ人の育成は少し違うように思えるので、文化コーディネーターと中間支援組織についての条文を別につくってはどうか。

関 市民の人材育成と専門家の育成を一緒にしているが、それを細かく分類するか、または違うタイトルで条文を増やすかは検討したい。

岡本 人材育成と子どもたちの文化活動については、こういうものが欲しいというのがはっきりしているのでも具体的に記載することができた。(案)第6条の1・2・3の項目も重要。市にある文化資源や文化活動に対し、市民が認識する・誇りをもつというのが1。それを支援していくのが2。新しい文化ができたならそれを守っていくのが3。自分で書いたが、ここがあっさりしすぎている。もう少し具体的かつ富良野らしさを盛り込みたい。皆さんにアイデアをもらいたい。

中村 端的にまとめられていて良いと思う。分かりやすい。

岡本 すごく端的で、あっさりしすぎているかと。これで、特色が出せるか。そもそもここに富良野らしさを出すかどうかだが、前文や基本理念で出せていけばいいのかな。どうでしょうか

関 1・2・3は総括している条項。4以降の条項をミクロの視点で詰めて、目指す方向性がイメージできてきたら1・2・3ができるとおもう。1・2・3はどうしても抽象的になってしまう。

関 今回委員がたたき台をつくり、それをほかの方がどんどん追加してくれたので完成度の高いものになった。

関 ここからはグループワークを行いたい。観光、自然、食文化というキーワードはまだまだ掘り下げられる。3つのテーマについて、どういう条文にすればよいか各グループで議論をお願いしたい。

観光：石平・原田・中村 自然：篠田・藤田・吉田 食文化：桑原・岡本

各グループの結果共有

自然グループの内容

条文案：森と水と大地の恵みによって培われてきた命の循環を尊重し、厳しい自然の中で生き抜いてきた先人たちの知恵と力を継承していくための取組その他必要な施策を講ずるものとする。

中村 すごくいい文章だと思うが、継承にプラスアルファで何か必要ではないか

藤田 メンバーでも「創造する力」という言葉をどこかに入れたいという話になったが、時間が足りずこの形になった。すべてを表現することができなかった。

事務局 文化振興条例であるので、主語を文化振興で整理していただけるとありがたい。

篠田 これからさらに練り上げていくことになると思うが、自然と関わることによって文化的な創造をイメージしていくということは念頭にあったが書ききれなかった。

関 とても美しい文章だと思う。何のために自然を生かすか、それは文化芸術の創造を図るためであるので、そのロジックが必要になるかなと思う。

観光グループの内容

自然グループのように一つの文章にはならなかった。観光の範囲が広いので「富良野を表現できる言葉が良い」「富良野を知ってもらうための郷土愛のようなものを盛り込みたい」「富良野らしい付加価値をつくりたいとか」「これまでフィードバックが足りなかったという反省を踏まえ色々な視点を盛り込みたい」というところまで話し合った。あれが足りない、これが足りない、あれを入れたい、というところで終わった。富良野を発信したいが、自然が含まれると富良野市だけで完結しないことがでてくる。富良野というところの沿線エリアのイメージが強いのので、単独というより沿線を含めた何かを作れば良いという話になった。

事務局 発信していく視点は重要。今後の議論で膨らませてもらえればと思う。

関 文化芸術を通して観光を活性化しますとなると、計画を実施するにあたり「ここは観光の領域じゃないか」という意見が出てくる恐れもあるので、主語は文化をもちあげるためとか、あるいはもう少しマクロな視点をもつのであれば、富良野のブランド価値を高めるため文化と観光を連携させるとなると具体的になっていくと思う。

食文化グループの内容

富良野の食文化とは何かという話になり、近頃ではオムカレー等があるが、昔からある文化的な食というものは富良野にはないのではないかなとなった。文化創造というところには必ずマンパワーがあって、そこで文化として成立するのはという話から、今ある富良野の農産物がいかにしてここにあるのかを振り返った時に、例えば昭和初期の米作りでいかにきれいな水を確保するかという点で米作りに苦労したという経緯がある。米が作れなかったら、他の野菜を作ろうかということになり、今の富良野ならではの農産物が出来てきたのではないかなという話になった。そういう歴史背景に思いを馳せて、富良野の食材を使った新しい食文化を作っていくという思いを条文にできないかという話になったが具体的な文章にはなっていない。新しい食文化の中から、高校生がコンテストを行うとか、富良野ならではの農産物を使って料理教室を行うとか文化活動に活かしていけるような条文を作ってはどうかという話になった。

桑原 文化創造とは人の生活の営みがあって成立する。富良野の食文化に限定すると難しいかなとなった。富良野は昭和初期に鳥沼・大沼地区で米作りで苦労したり、そこで人権が蔑ろにされ農家の人が苦労した歴史がある。そこから人権を獲得する歴史があって、今の豊かな農業があるので、そうしたことを文化と捉え条文に入れていくことが大事だという話になった。

事務局 食文化については、観光あるいは自然と違って文化の一つという視点で条例に盛り込んでいくことになるかと思う。食文化が主語になる内容で整理していただけると良い。

関 他のまちで人権の尊重という部分で「人権の尊重につながる文化活動の促進を図るものとする」という条文があるところがある。富良野は歴史的背景があるので、これを大事にしているまちだという意味表明をすることもできると思う。人権のつながりで多文化共生等の問題につなげていくと何を目指していかが見えてくるのではないか。人権を切り口にするのか、農産物を切り口にするのかで変わってくる。

桑原 富良野の食文化と考えたときに、歴史や語り継がれてきたものがイメージできていない。文化を創造するという観点から、そこには人の営みがあり、食文化の創造者となると農家のかたちとなった。富良野の場合、鳥沼大沼地区の小作のみなさんの壮絶な歴史があって、今の私たちの豊かな食につながっているという書き方にするのが良いという話になった。

関 見出しはどのようにつけましょうか

篠田 人権を尊重するというのは大事な考え方。これは、LGBTにも当てはまるし富良野は人権を尊重したまちであるということにもつながる。人権は別の項目で入れたらいいのでは。食文化では農産物をどう文化として発信していくかについて言及しては良いのでは。

2. アンケート作成ワーキンググループの進捗状況

吉田 アンケートのたたき台はまだできていない。今日の結果を見て、とりかかろうと思う。前回のミーティングのまとめを共有する。まず、アンケート作成の目的は今回の条例を知ってもらい自分事として考えてもらうきっかけとすること、市民の生の声を聴くこと、アンケートの結果をたたき台に反映してもらうことの3点。対象は、一般とアーティストを分けずに共通で結果が判別できるよう設計する。配布先は各関係団体、学校関連、WEB、委員の人脈を使うこととする。無差別ではなく、関係団体などに協力してもらう。配布時期は4月。グーグルフォームを活用しシンプルな設問にする。たたき台グループからの要望があれば教えてもらいたい。例えば、仮に作成したものには市民が有する文化的権利についてどう感じているかという設問がある。これらを踏まえご意見をいただきたい。

原田 富良野で生まれ育ったか、移ってきた人なのかわかる設問が欲しい。昔からいる人と新しい人の考え方の違いを知りたい

関 元々ここで生まれ育った人、帰ってきた人、移住してきた人の3パターンになると思うが、その人たちの何を明らかにしたいのか教えてもらいたい。

原田 まちづくりに関する意識の違いを知りたい。

関 街が変わっていくことに対し、元々の人はこのままでいいと感じているかもしれないし、新しい人はどんどん変えてもらいたいと感じているかもしれないということか

原田 その通り。

関 原田委員が以前から言っている。移住者と元から住んでいる人の折り合いがつかないことがあるという現状を明らかにしたいということでもよろしいか

原田 難しければ、今回のアンケートでなくても良いが。

関 アンケートの分析にあたり、軸を決めなければならないので、検討はできると思う。

中村 アンケートの結果をたたき台に反映とあるが、アンケートを取って終わりではなく結果を丁寧に扱うことが誠意だと思う。結果を元にたたき台を揉んでいくという共通認識をたたき台

グループにも持ってもらえるか。データのまとめは自分で行う。それを元に議論出来ればと思う。

原田 結果全てを反映できるか、今は約束できないと思う。

中村 その通りだと思う。いただいた視点や言葉で我々に気づきがあった場合にに使わせていただくという理解。アンケート協力者にあらかじめ了承をいただく必要がある。

桑原 前回の会議の際に 4 月以降学校でアンケートとることは可能といったが、それ以降考えていることがある。コロナ禍で、芸術文化について話す余裕がある人がどれだけいるか考えたときに、社会的要因も影響してくるのではないか。そんなことやってる場合じゃないという人もいると思う。アンケートの時期は慎重に考えたほうが良いと思う。

篠田 その通りだと思うが、だからこそ文化芸術という思いのある人もいる。生きるために文化が必要だという思いで条例をつくらうとしているので、協力いただく人の意思を尊重しながら協力いただけたところから始めてはどうか。

桑原 アンケートに反対ではない。時期を慎重に検討したい。

中村 先日市役所と一緒に幸福度アンケートを行った。対象 2200 件中、回収できたのが 600 件。そのときも時期が非常に大切という話になった。コロナ禍に行くことでデータにも影響があった。心に余裕や余白があるときに行ったほうが、前向きな結果になると思うが、時期も含めお願いする際の言葉も慎重に選ぶ必要がある。まん延防止が終わったあと、生活がある程度落ち着いた時期に行えば良いと思う。タイミングを逃すとずっとできないことになるので。

関 アンケートチームのスケジュールについては、グループ内でもう少し検討が必要。アンケートのたたき台をつくる負担が吉田委員一人にかかっているので、事務局を交え 3 者で骨格を作り、グループ内で検討することでどうか

吉田 了解

4. スケジュールについて

関 前回、3月に条例のたたき台を作ることになっていた。次回の会議に提出することが可能か急がずに再検討したほうが良いか。文言一つでも議論が必要なので、急がなくてもよいのではないか。

原田 事務処理上問題なければ、遅れても良いのではないか。

篠田 アンケートを取ったあと、さらに叩くことになると思う。たたき台の完成形をどこまで求めるか。たたき台を完成させるということは、ある程度の形にするということか

関 ある程度全体像が見えていないと、市民も何に対して答えて良いか分からないのではないだろうか。例えば、今日提示した案をさらに叩いて精度を高めるという方法もある。

藤田 今回出したたたき台は議論を尽くして出来たものではない。まだ時間が足りないという認識。3月という期限を設けないほうが良いと思う。

岡本 藤田さんに賛成。今回提出したものは原案に対しそれぞれが思いを追加したものだが、一つ一つの項目について議論した訳ではない。そこに全員の意見が反映されているかというところでもないと思っている。時間が許せば、項目ごとに各自意見を出し合ったほうが良い。完成形でなくても良いが、全員の意見が反映されたものでなければ大勢には提示できないと思う。3月いっぱいでの完成は難しい。

- 石平 ここで完成形ができるわけではない。まずは形にしてみようということで作ってものなのでこれから内容についてみんなで議論するのは良いと思う。次のアンケートに間に合うようなスケジュールを提示してもらえれば。
- 篠田 完成形でないことは理解している。時間があればできるかということそうでもない。たたき台をもとにアンケートを作るのであれば、ある程度早く作らないとアンケートの設計もできないのではないかと。スケジュールに猶予があるなら、もっとじっくり叩かないといけない。
- 関 条文すべてではなく見出しだけ提示するという方法もあるとは思いますが、これでは分からないという方は必ずいる。結局は条文を見て判断してもらうので、その完成度をどうするか。イメージが湧かないのが、条文を元に市民からどんな意見をもらうかという点。条文に足りない部分を聞くのか、条文に賛成なのか反対なのかを聞くのか、この辺りを明確にしないといけない。
- 篠田 時間があればもっと叩きたいがいつまで猶予があるのか。
- 岡本 次回3月の会議まで1か月ある。それまでの間に1回でも2回でも、たたき台チームで打ち合わせをすれば、期限を延ばさなくても済むかも。期日もそうだが、どれくらいの回数話せるのかということもある。
- 関 事務局としては10月答申以降はスケジュールに進めたいだろう。9月までは委員でスケジュールを決めることができる。第1案～第3案まで予定しているがここまで本当に必要なのか。あとは、3月中に何回ミーティングができるか。その結果にアンケートチームからOKがもらえるかどうか。そこから、また議論が始まると3月中の完成は難しいと思う。そうなると、3月中に検討委員会を2回やるのかどうか。
- 関 時間もないので確認する。3月を目途にその時点で出来ているものを出すのか、最大延ばしても4月中だと思うので、4月目途に変更するか。ここについてどう思うか。
- 石平 最初に決めたスケジュールに沿って進めることにして、足りなければたたき台チームで回数を増やしてミーティングを行ってはどうか。第1ゴール、第2ゴールと段階を決めて進めないと、伸びたら伸び分だけ難しくなると思う。3月末までにあと2回たたき台チームでミーティングをして、ものを作っていくと難しいと思う。
- 篠田 石平さんが言ったように、たたき台チームで3月に2回ミーティングを行い、4月の全体会議で報告するという日程でどうか。
- 関 全体会議は3月下旬に予定しているが、4月に延ばすことも可能かと思う。
- 岡本 3月下旬に全体会議が予定されているので、それまでにたたき台チームで2回ほど話し合っ、今日の話などもアップデートし作り直した物を全体会議で提示し、アンケートチームの合意が得られれば4月上旬に完成となるのではないかと。メンバーの時間が確保出来ればだが。
- 関 3月末までに今出ている内容を揉んでいき、それに向けてたたき台チームであと何回話し合いができるかは、チームの中で日程調整してもらうということにします。